

施設園芸経営における 作業・要員計画と作業指示の方法

施設園芸経営では、作業の機械化が進んでいないため、他の営農類型に比べ、多くの雇用労働力が必要となります。そこでは、要員配置や作業指示の出し方等の作業管理技術が、農場全体の総作業時間に大きく影響しますが、複数事例の実態調査から、作業効率に寄与する作業管理技術を明らかにしました。

☆ 技術の概要

1. 作業計画を立てる上で、必要とされる作業量に対し、どの程度の要員を配置するかを決めるためには、作業別の標準作業時間を把握しておくことが求められます。標準作業時間とは、その農場において、ある程度経験を積んだ人の平均的な作業時間であり、下図のような作業日報のデータを基に各人の作業量と所要時間を把握・集計し、作業管理に役立てています。
2. 作業指示では、「～時の休憩までに、～番レーンの収穫を終わらしましょう」と具体的な目安を設定することが、従業員のモチベーションを高める面から有効です。調査事例では、午前および午後の休憩時間（10時と15時）、昼食休憩と3つの区切りを利用して、それぞれの区切りまでに終わる作業を指示しています。
3. 要員配置においては、特定の作業に特化して育成した人員による作業班編成にするか、あるいは多くの作業をこなす多能工として育成した人員による作業班編成にするかを決める必要があります。どちらも長所・短所がありますが、特定の作業に特化した班編成だと、①急な休みなどで欠員が生じた時に、その作業だけ遅れがちになる。②順次、ハウスを移動しながら特定作業のみをこなしていくので、「移動」する時間が多くなり、労働生産性（労働時間に対する遂行作業量）が低下する。こうした点から、多能工による作業班編成を採用する調査事例が多く見られました。

作業日報		氏名 ※※					
月日	作物	内容	時刻			作業時間	備考
3月31日 (月)	②ホウレン水菜	①収穫	:	~	:		ベッド
	②ホウレン水菜	③運搬	:	~	:		
	②ホウレン水菜	②定植	:	~	:		ベッド
	①ねぎ	④ベンチ掃除	:	~	:		ベッド
	②ホウレン水菜	④苗準備・洗浄	:	~	:		
			:	~	:		

※従業員は、例えば「ホウレンソウの収穫」作業をした際に、その開始・終了した時刻と、その時間で収穫したベッド(レーン)数を、1番上の行に記載する

図 調査事例における作業指示書兼作業日報

☆ 活用面での留意点

雇用型施設園芸に関する組織づくりと人的資源管理の詳細は、研究成果パンフレットとしてまとめております。[農研機構 大規模施設園芸マニュアル](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134886.html) で検索し、ご活用下さい。
(https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134886.html)

(農研機構 企画戦略本部農業経営戦略部 田口光弘)